

# グリーンサークル 18号

グリーンサークルは、多摩市の「水とみどり」に深く関わりのある方々や環境活動、情報をご紹介します。皆さまの自然に対する関心が、明日のみどりに繋がります。この紙面が多摩のみどりについて考えるきっかけとなれば幸いです。

## クローズアップ

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局長  
多摩グリーンボランティア森木会 副会長 赤羽 誠



ホトケノザ

### 市民活動のはじまり

普通のお父さんであった私が、趣味的な面から 1987年、日本最初の市民による蒸気機関車と客車の動態保存（静岡県大井川鉄道にて）が実現した際に蒸気機関車の買い上げへの寄付、保存列車の運行の市民協力といったナショナルトラスト（歴史的建築物・自然環境の保護を目的とした運動）に関わったことが始まりです。



### 緑との係わり

自然に関する原体験は父親の故郷である長野県辰野町に小学生の夏冬に遊び行ったことです。かやぶきの家、田んぼ、山の中腹まで広がる桑畑が印象的で、虫や魚を取り、山に上る日々がありました。ただ、好きでしたが昆虫や植物を専門にしたいというレベルではなく、大学からは工学系の電気工学、情報処理、音響処理、音声処理、自然言語処理といった緑とは離れた分野で仕事をすることになりました。一方で、1981年創刊に創刊されたアウトドア雑誌「BE-PAL」を通じて私が関心をもったのが「100年かかって育った木は100年使えるものに」というオークヴィレッジ（飛騨高山）でした。そして、代表の稲本正さんが「子ども一人ドングリ一粒」を合言葉にした「ドングリの会」に長男が生まれた時に入会し、岐阜県などで開催されたイベントに何回が通いました。

### 多摩ニュータウンで暮らしはじめて

1993年から八王子市の多摩ニュータウンに暮らし始め、1998年ごろ終電帰り・休日出勤の私の耳に地域の活動の話が入るようになり、最初に住宅・都市整備公団（当時）が整備中の八王子市長池公園での里山活動に参加しました。さらに、公団が営団地下鉄（当時）から譲渡され京王堀之内駅の近くに保存されていた地下鉄丸の内線652号車（赤い電車）で「地下鉄探検隊」というイベントを公団といっしょに開催しました。ここで、岐阜県まで行っていた「緑」と静岡県まで行っていた「鉄道の保全活動」が身近な地域にあることが分かりました。

### 里山の活動

1999年に長池里山クラブの発足に合わせて地域住民として活動に参加しました。また、1999年4月4日にどんぐり山を守る会（多摩市落合）の内城道興さんの活動に訪れ、活動に参加しながら多摩の里山の手入れの方法、市民活動と行政とのお付き合いの方法などを勉強することができました。

一方、長池里山クラブで必要なチェーンソーの取扱いなどを習うために、1999年9月に長野県佐久市で開催された「愉快的山仕事講座」に参加し、信州大学元教授の島崎洋路先生、作家の浜田久美子さん、その仲間の方々からチェーンソーや木の伐倒方法を学び、2003年から長野県辰野町小野の個人所有の森林で浜田久美子さんを中心とした、自分が山主になった場合どんな山づくりをするかという「なるには塾」に参加して、実践的な山仕事を学びました。そこで、原体験としてあった父親の故郷であった長野県の山と自分の住んでいる地域が関係づけられることになりました。

この頃から土日は里山活動や地域の活動に時間を取るようになり、2009年春に会社を辞めてもよいという機会が来たので、早期退職し、大学発ベンチャー起業を試みながら、環境系の業務の勉強を始めました。そんな折、多摩グリーンボランティア森木会の関係から、多摩市立グリーンライブセンターの市民協働による企画運営の話に関わるうち、2011年4月からの多摩市・恵泉女学園大学・多摩市グリーンボランティア連絡会の三者の市民グループの事務局長となり今日に至っています。



### 愉快に楽しく

これらの経験体験から市民活動は趣味など好きなところから始め、愉快に楽しく行うことで、長く継続的に活動することができると思います。そして、楽しくなると、新たな知識獲得意識が出てきて勉強するようになり、さらに、活動が広がります。

私はこれからも緑と向き合い、仲間と里山を愉快に楽しみたいと思います。

～活動団体を訪ねて～

## 一本杉公園みどりの会

一本杉公園みどりの会 代表 鈴木 保夫

### 公園の概要

多摩市の南端に位置し、野球場、炭焼き窯、古民家（加藤家、有山家）があり、古民家の東には池と芝生の広場がある。点在して雑木林があり、それらの雑木林と公園の南端に位置する観察園（保育園活動の支援場所）の管理を活動の中心としている。

### 雑木林の四季の特徴

野球場の西は「多摩市グリーンボランティア初級講座2・3期生」が植えたコナラ、クヌギが中心で、昨年、初めてシイタケのホダギ用に間伐した。雑木林の南には市の天然記念物のスダジイの大木がある。

道路を隔てた古道の道西側の雑木林には、初夏にオカトラノオが群生する。

有山家の南から東に続く雑木林には、落葉広葉樹の他に、クロモジ、オノノヤガラ、ギンリョウソウなどの珍しい種類が見られる。

恵泉女子大学西の入口を入ると右側の雑木林の際から斜面にかけて、タマノカンアオイの群生が見られる。

その他、夏にはムラサキシキブ、アキノタムラソウ、ガンクビソウ、初秋には、センニンソウ、キツネノマゴ、ツルボ、など、多彩である。

他に希少種として、エビネ、キンラン、ギンラン、シユンラン、フデリンドウ、サイハイランなど多彩である。

全般的に常緑樹が極端に少なく、典型的な雑木林が多い。

### 一本杉公園を管理し

### 活動して行く上での留意点

いくつかの公園、緑地に見られる隣接する民家との問題もそれほど考慮に入れる必要も少ないので、動きやすい。

一方で、古民家に対する日照等も頭に入れておくことも大切である。

アズマネザサ中心であった下草も次第に多様性を帯びてきたので、これを生かしてゆく措置が大事である。

ボランティアといえども、活動するからにはそれなりの責任を伴うので、楽しみながら持続する気持ちを持って活動して行きたい。会員に女性が少ないので、一見、殺風景に感じるが、行動する時は和気藹々で、それぞれの個性を殺すことなく楽しく真剣に作業していると実感する。



作業の様子



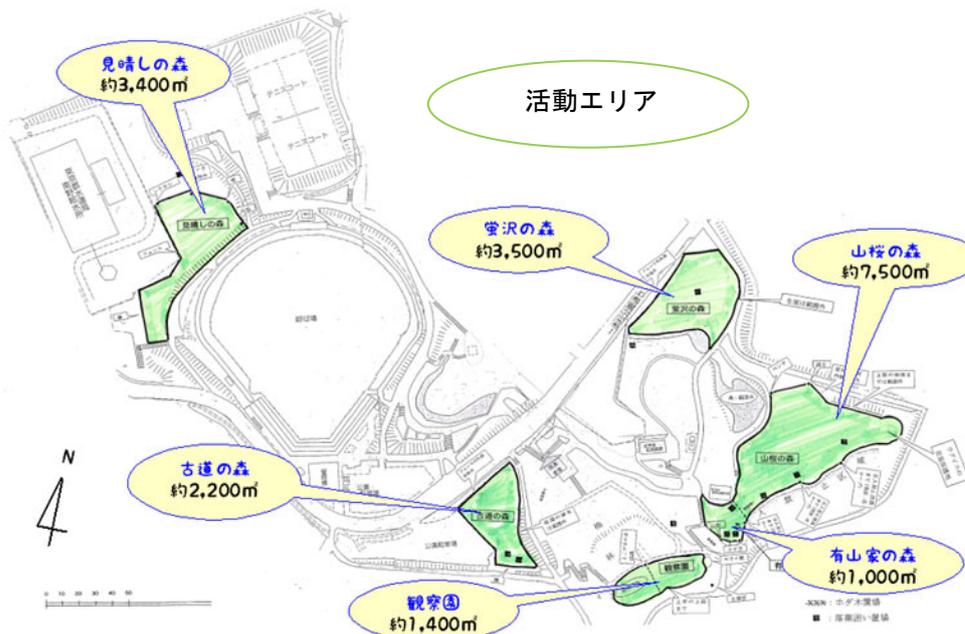
ツルボ



ギンリョウソウ



オカトラノオ



草刈り

会員募集中

活動日 毎月第2・第4土曜日

集合 一本杉公園内、古民家旧加藤家前庭

作業時間 9:00~15:00

連絡先(鈴木保夫) nrj37044@nifty.com

～活動団体を訪ねて～

## 多摩市水辺の楽校

### 水辺の楽校 会長 西 厚



ガサガサ（生き物調査）

#### 水辺の楽校経緯

「多摩市水辺の楽校運営協議会」は平成22年3月「多摩市水辺の楽校」として国土交通省に登録されました。

当初白石 功氏・勝部 隆氏と共に「たまりバーコミュニティ」として多摩川河川敷の一ノ宮公園の美化・清掃・周辺地域の環境保全等を行い、さらに小学校の総合学習支援・体験学習等イベントを通して活動していました。

その後「多摩市水辺の楽校」登録を目標に平成21年に「多摩市子どもの水辺協議会」として継承。活動開始構成団体は国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所・多摩市教育委員会・多摩市環境部環境政策課と市民団体の多摩市民環境会議・よみがえれ大栗川を楽しむ会・乞田川の恵み・多摩市愛鳥会・たまりバーコミュニティからのご協力賛同を得て立ち上がりました。現在、多摩川流域の源流から下流まで16市区村19校が集う水辺の楽校ネットワーク（多摩川流域水辺の楽校連絡協議会）で結ばれ交流も図っています。

#### 多摩市水辺の楽校の活動

多摩川・大栗川・乞田川を活動拠点に水辺とその周辺に生息する生きもの（野鳥・魚・植物・動物・昆虫等）を子どもたちに五感（見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触れる）で感じて自然観察することで感性を豊かにし、大人の仲間を増やし多摩川流域の素晴らしい自然環境にその季節に棲んでいる野鳥・魚たち、河原や土手に生える植物や様々な生きものを実感し環境に親しんで貰えればと思っています。外来種も増えていますがちょっと凶鑑もって散歩すると四季の変化で何か発見があります。涼しい初夏に川で「ガサガサ」して見ては？



絶滅危惧種 カワラノギク

#### 主なイベント

（たま広報で開催ごと日時をご案内）

・4月 楽校式(開校式)兼総会で始まりイベント年間実績/計画を報告決定。

・6月 水質調査 川の生きもの調査観察 ガサガサ カヌー体験教室 府中NPOの協力を得てカヌー10艇/Eポート2艇を一ノ宮公園付近の河川で最初はぐるぐる回転、上達すると流れに逆らって行けるようになります。また川面から見た街の眺め素晴らしい。

・7月 大栗川水辺まつり 筏でタイムレース（子ども同士・親子乗りは自由）

・8月 多摩川源流体験サマーキャンプ 夏休み2泊3日で小学3年生～中学生を対象。NPO 源流こすげの現地指導員と我々スタッフも協力。

一日目：溪流のぼりに挑戦。木洩れ日の中、清流に逆らい岩の間を横切りながら登る。樹木の特徴や野草の解説を聞き、淵ではヤマメを覗き、最後は堰堤岩から滝壺にダイビング。今まで経験したことはないだろう体力勝負！

二日目：笠取山・水干登山。水干は多摩川の最初の一滴でスタート地点、河口まで138kmの長い旅のはじまり。作場平(1312m)から途中ヤブ沢峠笠取小屋・小さな分水嶺を経て水干1865mまで

三日目：ニジマスつかみ取り/農業体験 年毎交代で源流研究所中村文明氏の源流体験の主旨：感謝・理解・自立・意欲・責任と忍耐・協調と思いやり

・9月 乞田川の恵み 川の生きもの調査観察「ガサガサ」 普段フェンス越しで見る川は魚が結構棲んでいる。

・1月 冬鳥観察会 一ノ宮公園～交通公園までチョウゲンボウは橋桁に巣を作っている。カワセミも見られる。

・5月～10月 総合学習時間のフィールドワーク支援  
東京都河川ボランティア表彰

平成26年7月都民ホールにおいて「東京の川を考えるシンポジウム2014」の会場で私たちの活動拠点とする多摩川・大栗川・乞田川の河川環境の向上・河川の魅力の向上・次世代への継承の活動成果として「東京都河川ボランティア表彰」で東京都建設局長から感謝状をいただきました。

これからも子どもたちや多くの市民の皆様と一緒に多摩川流域の素晴らしさを知る催しがありますので積極的な参加を待っています。鳥・植物・魚・昆虫大好きなスタッフ募集中です。いつでもご連絡ください。



シオカラトンボの羽化

## 多摩市 みどりのかわら版

多摩市公園緑地課 芦沢 芳美

### ～多摩東寺方緑地保全地域の活動紹介～

私は公園緑地課に異動して早6年になります。公園緑地事務については以前経験していましたが、公園整備事業が主で、自然環境面での経験は初めてでした。みどりに対する時代のニーズを実感します。現在の仕事は緑確保が中心で、公園緑地の用地確保とみどりの保全に関わっています。

これからご紹介する緑地は、平成18年に東京都の保全地域の中で46番目、多摩市で初めて指定された「多摩東寺方緑地保全地域」面積約1.5haをご紹介します。この保全地域は、桜ヶ丘団地の西側に隣接し、東寺方地区の住宅地から一步奥に入った所にあることから地元の人もあまり知られていません。保全地域に指定された頃は竹林が樹林地まで侵入し暗い緑地でしたが、東京都、恵泉女学園大学及び多摩市が連携し、ボランティア団体の協力を頂きながらグリーンキャンパスプログラムを進めた結果、桜ヶ丘住宅地から富士山が眺望できるまでに明るい緑地になりました。

緑地の四季は、春の東寺方児童館事業「竹の子探検隊」や地元東寺方小学校のタケノコ掘り「体験学習」から始まります。春季と秋季には恵泉女学園グリーンキャンパスプログラム事業が行われ竹林の伐採や自然観察などの体験をしています。冬には竹林を伐採した竹や竹の枝が、和田二小や東寺方小で行われている「どんど焼き」に使われています。また最近では、愛和小学校の授業「ガーデンクラス」の中で緑地の竹を利用して「レイズドベッ

ド」づくりが行われています。

### ～今春に開園予定の公園緑地紹介～

#### 1. (仮称)連光寺地区計画公園

この公園は、平成元年決定の連光寺地区地区計画の中で地区計画1号公園として計画されていましたが、一昨年に用地確保が完了し、公園設計を経て今年の3月末に開園されます。市内の既存区域での久々の新しい街区公園が誕生します。公園の設計に際しては、説明会を開き広く住民の方の要望や貴重な意見を伺い、芝生広場中心の広々とした空間、遊具そして乞田川に沿って河津桜が咲く散策路が設置されます。

#### 2. 鶴牧西公園のシダレザクラ周辺整備

鶴牧西公園の脇にあります多摩市天然記念物指定のシダレザクラ周辺の整備が現在進んでいます。この桜は平成23年に川井家より多摩市に寄贈され、樹齢推定が約200年で吉祥院のシダレ桜の子孫と言われています。今春の桜の開花時期には開園され、来園者が観賞できるようになりますので楽しみです。

#### 3. 和田緑地

日野市境にある緑地帯は和田なな山緑地に見るように貴重な多摩の原風景を残しています。この一部に位置する和田緑地は、みどりの基本計画にも位置づけされたみどりの軸の要にあります。現在都市緑地として整備中で、今後保全活動の拠点としても期待されており、今年度末には供用開始予定です。



グリーンキャンパスプログラム



子ども保全活動



レイズドベッド作り (愛和小)



竹の子探検隊



東寺方緑地保全地域の風景

### 表紙の絵

#### 「ホトケノザ」(シソ科)

早春の人里に生育。春の七草はこのホトケノザではなく、キク科のコオニタビラコのことをいいます。

#### 絵・内城 葉子

<プロフィール>1949年東京生まれ。

1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal受賞など

<所属>日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書>「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。

雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴です。

### 編集後記

先日、娘が秋田の伝統工芸、「樺細工」を体験してきました。樺細工といえばヤマザクラの樹皮を用いて作られる伝統工芸品で、湿度の変化を一定に保つ効果があるということで、茶筒・家具などに使用されます。樹皮が艶やかで、深みのある茶色がとてもきれいです。

サクラの花に魅せられ上を向く春ですが、少し視点を変えると、また違った楽しみ方ができると思います。

それにしても先人の知恵はすごい！(高澤 愛)

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル18号

発行日:2015年4月1日

編集:多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

発行責任:多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>